



もてなしてくださいました。吉田さん、山崎さんは日本の浴衣を披露してくださり、みんなはじめてみる日本の衣装に興味しんしんでした。

村人たちの生活、現在行われているプロジェクトなどを見て、この先も、少しずつ、住民たちが自分たちで力をつけつつ一歩一歩進んでいく、その一部を私たちがお手伝いできたら…という思いを強くしました。お金の力で、または、日本人の価値観で物事を進めるのではなく、彼らが自立した生活をするために、今何が必要なかをじっくり話し合っ、これからも友好的な関係を結んでいけたら…と思います。会員の皆様もぜひ一度ビラーン体験を！

∞ ボールールとラムアフスは公立にバトンタッチ／ラムブソンに分校開設 ∞

* 来年度に予定していたボールール本校の閉鎖が早まりそうだとの情報が入りました。1960年代に学校を開設して以来、ビラーン族の初等教育普及に貢献してきたボールール本校。校舎などの施設は、近い将来、職業教育施設（テクニカル・ハイスクール）として再びビラーンの子どもたちのために使用する方向で検討中との事です。

* ラムブソン・コミュニティーでは、同じバランガイのラムアフス分校の政府移管（公立化）が決まったことを受けて、新しいビラーン族のための学校を、6月開校をめざして建設中です。HANDSは、同時に進めている簡易水道建設とともに、FIDRの助成（約80万円）を受けてその建設に協力しています。ここでも、住民たちはブロック作りその他に汗を流して限られた資金で待望の学校の開設を自分たちの手でとがんばっているそうです。

* * * *

フィリピン政府が初等教育の義務化・無償化を決めてからも、山の先住民族の村にはなかなか学校ができず、CMBの学校はそのような山深いビラーン族のコミュニティーで初等教育の普及に努めてきました。ボールールやラムアフスのように、教育を政府に移管することで、CMBは教育の機会に恵まれないコミュニティー住民から要請を受けて、新たに学校開設を進めてきました。昨年度のサムラング、そして今年のラムブソンの開校です。

∞ ボールール本校、ラムアフス分校の子どもたちを応援して下さいの会員の皆様へ ∞

公立は授業料なしですが、各種行事の費用など、父母負担額はCMBの学校とあまり変わらないといわれています。今後、サムラング、ラムブソンなど、CMB新設校の子どもたち支援に移行していただくまで、今しばらく、両校の子どもたちの応援をお願い致します。〔山崎〕

∞ ハイスクール生徒20名、カレッジ1名の応援よろしくお願ひします ∞

新年度は公立、私立ハイスクールそれぞれ10名、カレッジ1名が、将来のコミュニティー自立のリーダー役を目指して、町の寮から学校に通う予定です。ハイスクールは、公立で一人年約2万円、私立で5万円かかります（生活費含む）。政府奨学金、CMB資金で約半分、残る半分をHANDSで応援したいと考えています。お仲間を誘っていただいて、2-3人で一人の生徒をとというご支援の方法も大歓迎です。その他教育全般へのご寄付もよろしくお願ひいたします。

（教育支援会費について） 一口月額300円（半年分1,800円、年額 3,600円）

小学生は一口（300円）以上；ハイスクール2口（600円）以上；カレッジ3口（900円）以上